

## 2 10大費目指数の動き

各費目の動きを前年比で見ると、食料指数は穀類の値上がりなどにより7.0%上昇、住居指数は家賃の値上がりなどにより1.1%上昇、光熱・水道指数は電気代の値上がりなどにより4.2%上昇、被服及び履物指数は衣料の値上がりなどにより3.6%上昇、保健医療指数は医薬品・健康保持用摂取品の値上がりなどにより1.5%上昇、交通・通信指数は自動車等関係費の値上がりなどにより2.5%上昇、教養娯楽指数は教養娯楽用品の値上がりなどにより2.3%上昇、諸雑費指数は他の諸雑費の値上がりなどにより2.5%上昇した。一方、家具・家事用品指数は家庭用耐久財の値下がりなどにより0.1%下落、教育指数は授業料等の値下がりなどにより13.6%下落した。

10大費目指数	前年比 (%)		寄与度	
	令和6年	令和7年	令和6年	令和7年
総合	2.7	3.1		
食料	4.7	7.0	1.29	1.98
住居	0.0	1.1	0.00	0.21
光熱・水道	6.0	4.2	0.39	0.28
家具・家事用品	3.3	-0.1	0.16	-0.01
被服及び履物	2.3	3.6	0.08	0.12
保健医療	0.2	1.5	0.01	0.07
交通・通信	1.7	2.5	0.24	0.36
教育	0.8	-13.6	0.02	-0.26
教養娯楽	4.4	2.3	0.41	0.22
諸雑費	1.4	2.5	0.09	0.17

寄与度について

ある品目又は類指数の変動が、総合指数の変化率にどの程度寄与したかを示したものであり、計算式は次のとおりである。

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{当期の指数} - \text{前期の指数}) \times \frac{\text{当該項目のウエイト}}{\text{総合のウエイト}}}{\text{前期の総合指数}} \times 100$$

※類指数は、全国及び地方・都市階級・市町村別の品目別価格指数をそれぞれの品目別ウエイトで加重平均して算出したもの。

